診療局：薬剤科

ースタッフ紹介ー

役　職	スタッフ名
部　長	森朝　紀文
次　長	出山　恭隆
主　幹	中川　直樹
主　査	高橋　和代
主　査	泉原　里絵
主　査	安井　結香里
主　査	若林　里絵
主　査	西井　拓人
主　査	北庄司　敦久
	河津　敏明
	宮本　紅喜
	松浪　美和
	宮本　訓子
	小垣　睦
	南　佳代
	山道　麻葉
	上田　祥子
	伊藤　健二
	中川　貴弘
	籔内　新平
	松本　光司
	越山　晶弘
	岡本　典久
	西田　愉可利
	小林　洋平
	奥田　剛史
	谷口　晴菜
非常勤	問屋　壮美（6月入職）
非常勤	山野　翔子（1月入職）

ー概要ー

薬剤科では、調剤、注射薬の無菌混合調製や服薬指導等のさまざまな業務を行っている。特に、2012年度の診療報酬の改定により、病院薬剤師の念願であった病棟薬剤業務実施加算が新設されたのを受け、全病棟に病棟専任薬剤師を配置し、オーダ入力支援等の新しい業務を実施している。

厚生労働省医政局通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出され、薬剤師がチーム医療に参画することが求められており、当院では感染対策チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームに積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。特に、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）では、専任薬剤師を配置し、薬の専門家として積極的に適正使用を推進している。また、生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を行っている。薬剤科では今後とも、質の高い病棟薬剤業務の実践と有効かつ安全な薬物療法を提供するため、以下の4項目を基本的な理念としている。

《基本理念》

1．薬の専門家として、患者さんにとって有益な薬物療法を提供する。
2．薬によるインシデント・アクシデントを減少させ、安全な薬物療法を提供する。
3．臨床薬剤師として医療チームに貢献する。
4．薬剤師の職能を高めるため、研究心を持って日々努力する。

ー実績ー

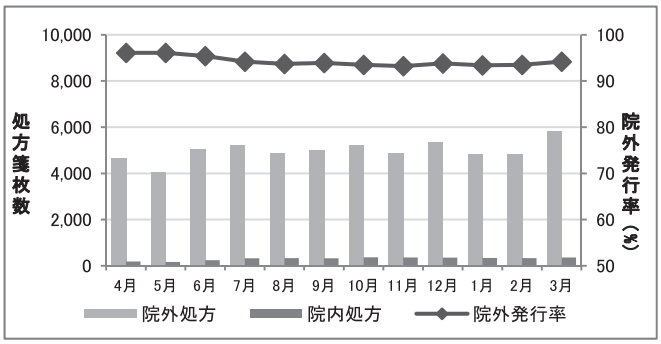
2000年4月より、病院運営の一環として、「医薬分業の徹底と薬剤科病棟業務の充実」に基づき、全面院外処方せん発行を行い、2020年度月平均の発行率は94.3％を達成している（グラフ1）。

薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数については、月平均の指導患者数731名、指導件数839件（退院加算222件）と順調な推移を示している（グラフ2）。

また、無菌製剤処理加算の施設基準を2001年3月に取得し、TPN製剤の調製を行っているが、2010年8月より一般の点滴を含めた全ての注射薬の無菌混合調製を行っている。2020年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均806本、年間9，677本となっている（グラフ3）。

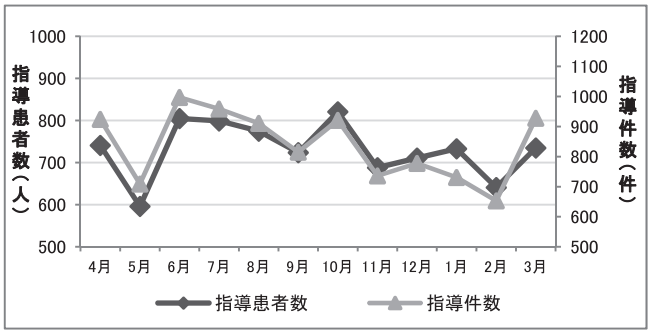
次に、外来の抗がん薬の混合調製を2002年8月より開始し、2004年12月より外来・入院の全患者について、抗がん薬のレジメンの一元管理と調製を実施している。2020年度における実績は月平均382名、年間4，585名の患者に調製を行い、調製本数は月平均535本、年間6，424本となっている（グラフ4）。また、2014年4月より外来がん治療センターにがん薬物療法認定薬剤師を配置し、がん患者指導料を月平均約54件算定している。

さらに、患者サポートセンターと病棟において、全ての入院患者における薬剤師による持参薬の鑑別を2008年4月より開始している。2020年度における実績は月平均540人、3，153剤となった（グラフ5）。



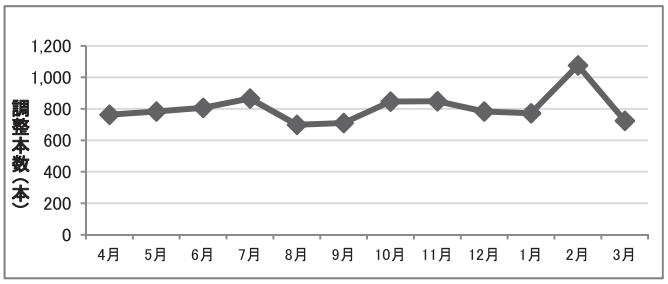
（グラフ1）2020年度処方箋枚数と院外処方箋発行率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院外発行率	96.1	96.1	95.4	94.2	93.7	93.9	93.5	93.2	93.8	93.4	93.5	94.2
院外処方	4,641	4,029	5,022	5,208	4,875	4,989	5,221	4,883	5,360	4,834	4,813	5,837
院内処方	189	164	240	323	330	325	364	358	354	340	334	362



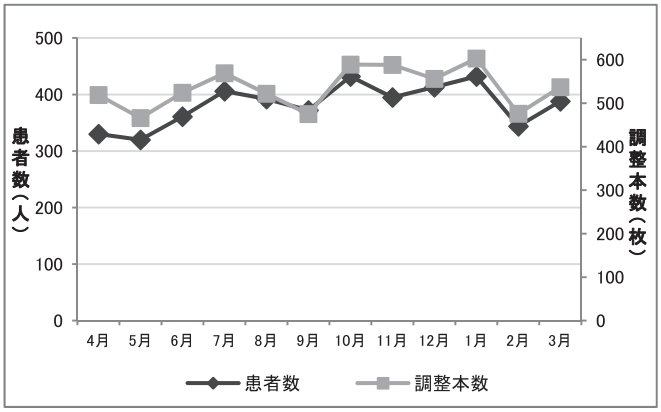
（グラフ2）2020年度服薬指導実施人数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導患者数	741	596	805	799	775	724	821	688	711	733	641	735
指導件数	924	709	997	959	911	815	921	736	778	731	653	928



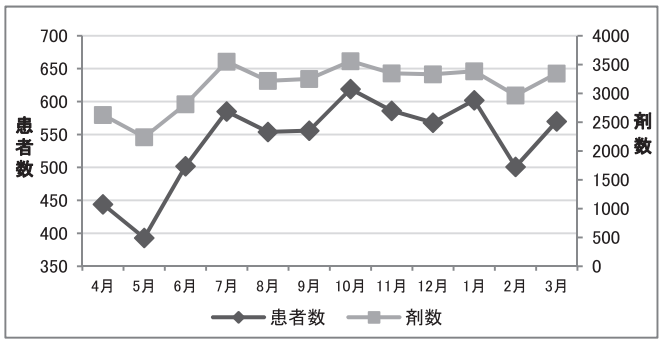
（グラフ3）2020年度注射薬無菌調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調製本数	763	783	807	866	699	710	846	848	783	772	1,076	724



（グラフ4）2020年度抗がん薬調製患者数・調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	330	320	361	406	392	372	432	395	413	432	344	388
調整本数	519	466	524	569	522	475	589	588	556	603	476	537



（グラフ5）2020年度持参薬鑑別患者数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	444	393	502	585	554	556	619	586	568	602	501	570
剤数	2,625	2,239	2,812	3,550	3,217	3,250	3,560	3,348	3,330	3,384	2,965	3,344

―今年度の成果と反省点―

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり薬剤管理指導件数は減少してしまった。しかし、人員の確保に苦労したものの調剤等の他の業務を効率化することにより、集中治療室おける病棟薬剤業務実施加算2の算定を復活することができた。

また、医薬品の供給面では、後発医薬品メーカーによる相次ぐ事故や不祥事により供給不足が多く発生し、必要量を確保することに翻弄された一年となった。

―来年度への抱負―

来年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延が予想されるため、治療薬を積極的に採用し供給する。また、ワクチンを溶解・充填して供給し、安全かつ迅速に接種できる体制を整える。

病棟業務では、看護師と連携・協働し、配薬カートを導入することにより、安全、確実な薬物療法を提供する。また、薬剤管理指導業務は、指導件数を増加させるのみではなく質を向上させる取り組みを行う。